

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2018年2月22日

2021年度に向けた教育研究目標

主管部局	学長室	担当部局	学長室 総合企画部
------	-----	------	--------------

【A票:内部質保証に関する方針】

【関西学院自己点検・評価規程】

- 「教育研究水準の向上を図り、学院の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動及び管理運営等の状況について自ら点検及び評価を行う。」
- 「法人・大学等及びその各部局は、自己点検・評価結果に基づき、その教育研究活動等について改善が必要と認められた場合は、その改善に努めなければならない。理事長等は、総括結果を法人等の年度計画及び中長期計画に反映させるように努めなければならない」(第9条)

【自己点検・評価を推進するうえでの視点】

- 高次でより自律的な教育研究の質向上、実質的に効果を上げる取組み**
自らの教育研究活動及び管理運営等の取組みについて、教職員が自律的且つ積極的に、本学の個性や専門分野の特性、国際通用性の観点等からの点検・評価を行い改善点を明確にすることで、学院全体の諸活動の質向上を図り、学院の目的及び社会的使命達成に寄与する活動とする。
- 本学の理念・目的、教育研究目標、各方針から自己点検・評価の行動計画までを構造化し、関係性を明確にした取組み**
各部局の自律性に配慮しつつ、本学の理念・目的、目標と整合性が取れた自己点検・評価の取組みを推進することで、学院全体として理念・目的の実現に向けた一体感のある、高い水準の取組みとする。
- 客観的・合理的データに基づいた取組みの推進**
信頼性の高い質保証を行うため、客観的で合理的なデータによって本学の教育・研究の質を示す点検・評価活動を行う。そのためには、データを開発・収集・蓄積し常に進捗状況を数値等によって確認できる仕組みを構築することで、自らの証明能力を高めていく。
- 学院全体での教育研究活動・管理運営の改善に繋がる取組みの共有、展開**
自己点検・評価の取組みを通じて明らかになった教育研究活動や管理運営上の課題や好事例は、関西学院評価推進委員会を通じて全学で共有し、必要な場合には助言・勧告を行い学院内諸施策に展開することで学院全体の改善に繋げる。
- 環境変化に応じた目標、行動計画等の見直し**
本学の教育研究目標や各種方針、自己点検・評価の行動計画等は、適宜見直しを行うことが可能な取組みとすることで、学院を取り巻く社会環境等の変化に即応した点検・評価活動とする。
- 適切性を担保するための第三者評価の実施**
本学の教育研究活動及び管理運営の取組みに関する自己点検・評価の適切性が確認されるよう、学内教職員と学外有識者による第三者評価を実施す
- 積極的な情報公開による社会への説明責任**
本学の社会的責任を果たすため、自己点検・評価結果を公表する。
- 認証評価機関による認証評価への対応**
社会に対して本学の教育の質を保証するため、第三者評価機関による認証を得る。
- 「質」の文化の醸成**
内部質保証の取組みが日常的な活動として学院に根付き、自律的かつ恒常的な改善の取組みが継続されるよう、自己点検・評価および関連する諸施策を積極的に展開する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

- 関西学院の教育のさらなる質向上に資する自己点検・評価制度への進化
- 2015年度からスタートした第三期認証評価を見据えた「自己点検・評価」の質向上プロセスの完成度を高める。
 - 「第四期認証評価を見据えた自己点検・評価制度」に向けて、国際通用性等を視野に入れ、更に質向上プロセスを改善・改革する。

2. 達成度評価

評価指標	評価尺度
①認証評価(2020年度受審)における評価結果 ②各部局での内部質保証システムに関するアンケート(毎年度調査(質文化の醸成含む))	A: ①認証評価で高い評価を得る/②全学部等部局において内部質保証システムが有効に機能している(すべての部局が肯定的な回答をしている) B: ②肯定的な回答が8割 C: ②肯定的な回答が6割 D: ②肯定的な回答が4割

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点	評価	—	B	①— ②C	①— ②B	①— ②A	①A ②A	①— ②A
	目標設定のしくみの構築(各学部等部局による目標設定)		2016年度進捗状況欄に記載のとおり	第三期認証評価基準の反映方法を検討	制度の完成(第三期認証評価スタート)	自己点検・評価報告書作成制度の改善	認証評価受審制度の改善	認証評価のフォローアップ(第四期認証評価を見据えた自己点検・評価制度のスタート)
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	—	B	実績	B			
	見込・実績・目標(値又は状況)	目標設定のしくみの構築(各学部等部局による目標設定)	2016年度進捗状況欄に記載のとおり		2017年度進捗状況欄に記載のとおり			

【2017年度の進捗状況について】

(自己点検・評価の取組み)

2017年度も2016年度に引き続き、大学執行部(大学全体)、学部・研究科、聖和短期大学それぞれについて、A票およびC票で進捗評価を実施した。また、第三期の認証評価における大学基準、点検・評価項目、評価の視点等が公表されたことを受けて、大学執行部および学部・研究科のB票の内容を全面的に見直した。

(内部質保証システムの実質化に向けて)

第三期の認証評価では、内部質保証システムの有効性に着目した評価が行われる。また、本学では創立150周年に向けた将来構想の検討が進められている。これらの状況から、大学だけではなく関西学院全体における内部質保証の実質化及び業務効率化に向けたマネジメントシステムのあり方について、昨年度末から検討を始めている。

また、学内構成員の内部質保証への認知度・理解度の向上に資する取組みとして、昨年度に引き続き、内部質保証システムに関する懇談の機会を設けた。内部質保証への理解度をたずねるアンケートでは、昨年度時点ですでに33名中28名が肯定的な回答をしていたが、今年度の回答者51名中46名が肯定的な回答をしており、理解度の深まりが見られた。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

http://www.kwansei.ac.jp/kikaku/kikaku_m_001630.html

＜評価専門委員・第三者評価結果＞ 2017年12月15日公示

- ・ 内部質保証システムが機能するためには、(1)大学の諸活動について、方針や目標が適切に定められ、それを実現するための行動計画が立てられているか、(2)計画に基づいて目標管理型の業務執行が着実に実行されているか、(3)活動状況を定期的に点検・評価し、その結果が構成員にフィードバックされているか、(4)評価結果を基に適切な改善措置が講じられているか、(5)質の向上に向けた努力を可能にする管理運営システムが整備され、十分に機能しているといった点が主なポイントです。帳票で見ると、個々の目標の設定、行動計画、定期的な評価、改善の方策などが適切に組み込まれており、かなりの工夫がなされていますが、PDCAサイクルを円滑に駆動させるための管理運営体制の整備状況に関しては、主管すべき部署が必ずしも明確ではありません。
- ・ 管理運営体制を円滑に駆動させるためには、(1)各学部等の自己点検評価結果を全学で共有するため、学部等を超えた相互学習の機会を設けること、(2)学部等から提出された評価結果について、大学執行部はどう受け止め、どう評価し、今後どのように改革改善を進めようとしているのかを、当事者に伝えることが重要です。改善に向けた努力を誘うのは目標の明確化と適切なフィードバックであると言われています。学長室は、大学評価委員会や評価情報分析室と連携して、その役割を果たす必要があります。(A)
- ・ 立ち上げは大変だったと思いますが、緻密な評価のシステムが出来上がって来ていると思います。この上は、ガイドラインを充実されるとともに、現場の評価にかかる労力を過大なものにならないよう、余り制度をいじらないで推進されては如何でしょうか。(B)
- ・ 自己点検・評価の取組みを通じて収集する定量データの各学部での活用状況について、肯定的な評価が8割に達するなど、学内の理解が高まっている点が評価できます。
- ・ 2015年度からスタートした自己点検・評価が3年目に入り、行動計画によっては進捗が進んだものが散見されるようになってきています。行動計画を既に組み直している例も一部にはみられますが、そのままになっている事例も多く、進捗した行動計画のネクストステップを検討し新規の行動計画を追加する試みを進めることが求められます。(C)
- ・ 今後も目標達成に向けて取り組んでほしい。(D)
- ・ 引き続き目標の達成に向けた進捗に期待します。(E)
- ・ 第3期認証評価への対応を合わせて、関西学院における内部質保証を実質化するマネジメントシステムを検討している点は大変評価できます。(G)